

欠席の専門委員からの意見等

堂浦専門委員

本評価の考え方については、方針としては良いと考えます。

ただし、2013年5月評価書から引用されている「出生年月でみた BSE の最終発生から 11 年以上発生が確認されなければ、飼料規制等の BSE 対策が継続されている中では、今後、BSE が発生する可能性はほとんどないものと考えられる。」といった記載について、2 点意見がございます。

まず 1 点目は、細かいことですが、「BSE 感染牛は満 11 歳になるまでにほとんど（約 97%）」とされる根拠となる BSE 発生データです。「BSE 発生の実績」が臨床症状牛だけをカウントしているのか、健康牛（と畜時にプリオンを検出した）も含めてカウントしているかによって、この文章の正確性に違いが生じて来ないのかという懸念です。

2 点目は、プリオン病の感染から発症までの潜伏期間は正規分布ではなく右側にすそ野が広い（尾を引く）分布となりますので、97%からもれる臨床症状牛についてはかなり高齢で検出される可能性もあり、3%についてどのように考えるかということについては検討の必要があると考えます。実際に日本における発生を見ても、185 か月齢での定型 BSE の発生例もあり、このような外れ値を考慮に入れた上で、世界における 11 歳以上での検出数や最高齢でどのくらいの牛で検出されているのかについてもデータが入手できるのであれば確認する必要があるのではないのでしょうか。